

被災地長期支援へ

サイクロンや津波の被害にあったミャンマーとモルディブで、防災と環境をテーマに支援活動続けるNPO法人「SEEDS・Asia(シース・アジア)」(東灘区岡本二)が二十九日、JR西宮駅南のフレンテ西宮四階、西宮市国際交流協会ですべての活動報告会を開く。
(木村信行)

「現状知って」―活動報告会

29日、西宮で東灘のNPO

同法人は二〇〇六年、国連の発展途上国支援プロジェクトに携わるインド人のラジフ・シヨウ京

都大大学院准教授らが、インドで活動する団体を母体に、阪神・淡路大震災を経験した神戸から活動の輪を広げようと結成した。スタッフは五人。

十五万人近くが亡くなったとされる〇四年十二月

ミャンマー

月のスマトラ沖地震で

は、海拔二メートル以下の島が

モルディブ



シース・アジアの呼び掛けでごみの分別をする子どもたち=2008年、モルディブ

マングローブ植林、ごみ分別

数の被害者が出た。

同法人は〇七年末に現地調査を実施、住民と一

緒にできる活動として、沿岸浸食を予防するマン

グロブの植林に取り組み。同国には家庭ごみの回収システムがなく、海

岸に大量のペットボトルやプラスチック類が捨て

られており、地域の学校と連携し、ごみの分別活動も始めた。

昨年五月にサイクロン被害を受けたミャンマーでは、災害に強い住宅建設の技術指導に取り組み。建物の九割以上が壊れたという同国南部では、木や板を組み合わせただけの小屋が立ち並んでいるという。「これが永住住宅化するのでは」と危機感を感じ、ミャン

マー工学会を窓口日本に技術者を派遣。柱と柱の間を木を交差させるなど、強度を高める技術を

伝えるワークショップを開催した。

同法人の小林恵梨子さんは「被災直後の救援ではなく、長期的に取り組める支援をしたい。現地の様子と活動内容を知りたい」と話す。

午後六時半―八時。無料。同法人 ☎766・9412

災害に強い家造り指導



災害に強い家造りの技術指導を受けるミャンマーの人たち。2008年、ヤンゴン市内(いずれもシース・アジア提供)

など、強度を高める技術を